

交通政策審議会港湾分科会 第3回環境・安全等部会

資料2

みなとまちづくりの推進について

平成14年6月24日

「みなとまちづくりの推進」における整理のポイント

1. みなとまちづくりの方向性

- ・地域の暮らしの重視
- ・個々のみなとの個性の活用

2. 「みなとまちづくり」の実現性を高めるためのシステム

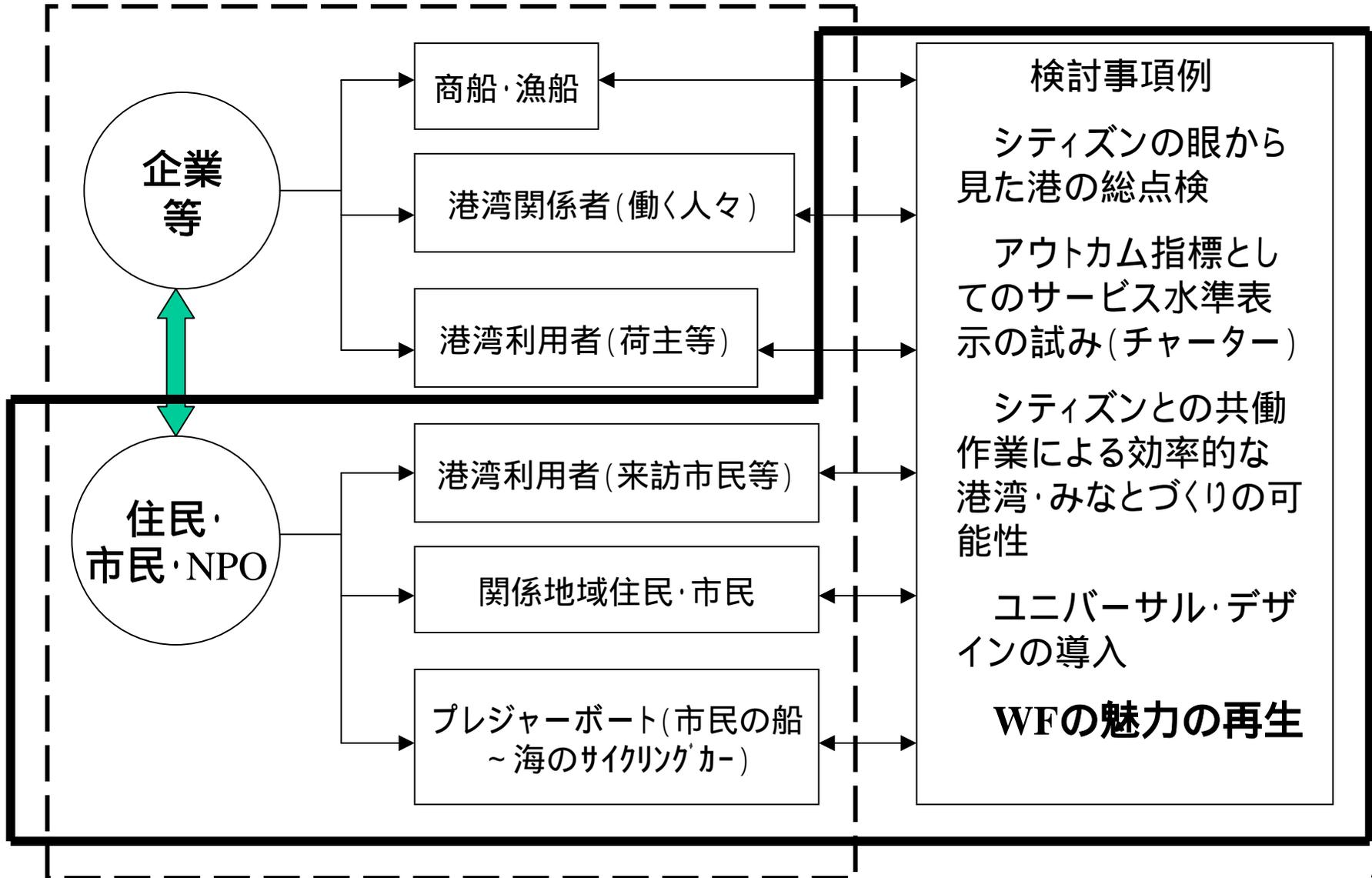
- ・国、港湾管理者、住民、NPOの役割分担（計画づくりから将来（管理、運営、利用）にわたって）
- ・プランづくりからの5W1Hの可能な限りの明示
- ・できるところからやる
- ・プランの評価とフィードバックの柔軟性

3. みなとまちづくり総合支援事業に求められるもの

4. 観光に対する取り組み

- ・みなとまちの観光資源とは
- ・住民が暮らしやすい「みなとまち」は観光客も訪れたい「みなとまち」
- ・一方では、地域振興のための観光客優先の「みなとまち」づくりもあり得るのでは

シビル・ポートのシティズン（港の市民）の一例



みなとまちづくりの目的

地域の個性的な発展を支えるみなとまちづくり

地域の生活と産業を支える
活力ある空間の形成



豊かで親しみやすい
生活空間の形成



地域の個性を活かした美しく
文化性に富んだ空間の形成

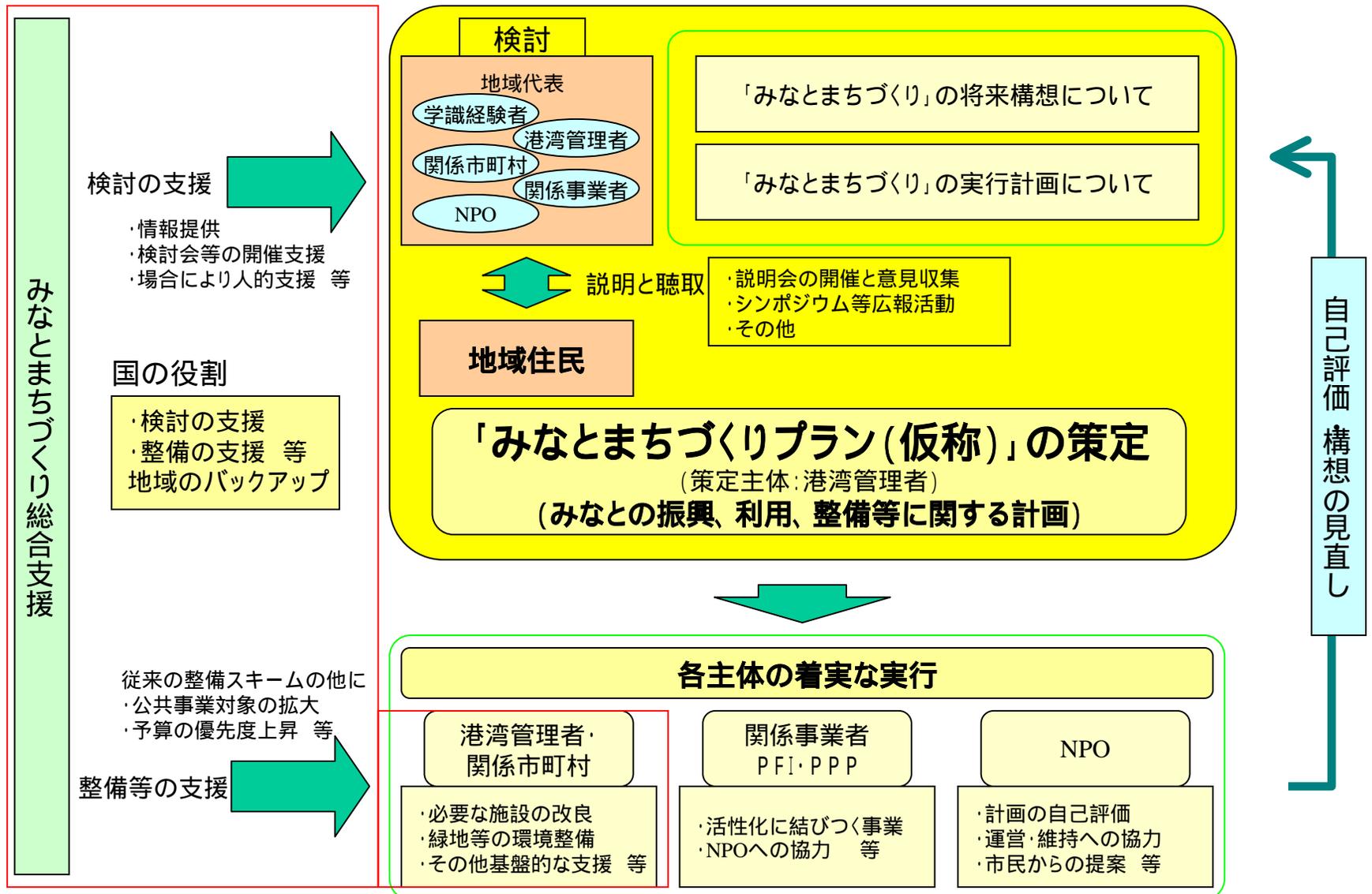


海洋性レクリエーションや観光を
核とした空間の形成



みなとまちづくりの推進フロー（案）

国民生活の質が向上し、身近なみなと・うみとのふれあいを求める声が大きくなっている。



まちの産業を支えるみなと



紙の原料となるチップを輸入し、市内の製紙工場へ運ぶ(油津港)



背後圏の工場から海外へ建設機械を輸出(金沢港)



合板用の原木を輸入し、背後の合板工場に運ぶ(佐伯港)



離島の生活物資を運ぶ(天売港)

「海の辺の路」イメージ



海と緑の10,000メートルプロムナード(横須賀市)より

「歴史のある空間」イメージ

エッセル堤【福井港】

河口に栄えた福井県三国港(現福井港)が、九頭竜川の運んできた土砂に埋まらないよう、土砂を海に排出するため明治13年に築堤された。



北防波堤【稚内港】

強風と激しい波浪からサハリン航路の埠頭を守るため昭和11年に造られた。当時、このドームの中には鉄道駅があった。



石積み掘込港湾【手結港】



江戸時代初期、今から約350年前に土佐藩の野中兼山が築いた港。現在も船だまりとして使用されている。

テルファー【清水港】

昭和3年に完成し、木材を運搬していたクレーンを修復・保全、緑地の中の景観を形成している。



「海の路」ステーション（仮称）イメージ

